

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ウィズ・ユー西新井 児童発達支援			
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 18日		～	令和8年 3月 4日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数)	11名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 8日		～	令和8年 3月 4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月4日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	夏祭りやクリスマス会やBBQ等のイベントを毎年開催しています。	毎年、夏休みに夏祭り、冬休みにクリスマス会を開催し、普段交流のない児童が顔を合わせてコミュニケーションを取ったり、保護者が顔を合わせる機会になっています。児童を主体として出し物をしたり、芸人さんのパフォーマンスを見て、みんなで楽しさなどを共有できる場となっています。	今後も夏祭りやクリスマス会などの行事を継続して開催し、児童同士や保護者同士が交流できる機会を大切にしています。また、児童が主体となって企画や準備に関わる機会を取り入れることで、社会性や協力する力を育む活動として充実を図っていきます。さらに、地域の方やボランティア等と連携する機会も検討し、地域とのつながりを感じられる行事づくりを目指していきます。
2	BCP研修や強度行動障害の研修に参加し、支援の強化に努めています。	定期的で開催されるBCP研修にて災害時の対応の仕方や、感染症流行時の対応についての訓練を行なっている。事業所でも定期的に研修を行い、それぞれ調べて資料にまとめたものを発表して伝達しています。その他、東京都で開催される研修にも参加し、職員の能力強化を図っています。	BCP研修や強度行動障害支援に関する研修への参加を継続するとともに、研修内容を事業所内で共有する仕組みをさらに充実させ、職員全体の支援力向上を図っていきます。また、外部研修への参加機会を積極的に確保し、最新の支援方法や知識を取り入れながら、より質の高い支援の提供につなげていきます。
3	トレッキングなどの運動療育を活用しています。	児童が楽しみながら協調性運動障害の改善などができるよう、トレッキングという運動療育プログラムを活用しています。	トレッキングなどの運動療育を継続して取り入れ、児童が楽しみながら身体機能の向上や感覚統合の発達を促す活動として活用していきます。また、児童の発達段階や特性に応じて活動内容を工夫し、運動療育が継続的な成長につながるようプログラムの充実を図っていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の保育所や幼稚園、地域の子どものとの交流機会については十分とは言えず、地域との関わりを広げる取り組みについて検討の余地があります。	地域交流については、児童の安全確保や職員配置、移動時の対応などの配慮が必要となるため、日常の療育活動の中で実施機会が限られていることが要因として考えられます。	地域交流については、公園活動や地域イベントへの参加などを通して、無理のない範囲で地域の子どもや地域社会との関わりを持つ機会を検討していきます。
2	保護者支援については日常的な相談対応は行っているものの、保護者同士が交流できる機会や、子育てに関する情報提供の機会についてはさらに充実させていく必要があります。	保護者支援については日常的な相談対応を中心として行っているため、保護者同士の交流機会や支援プログラムとしての取り組みが十分に周知されていない可能性があります。	保護者支援については、保護者面談や日々の情報共有を大切にするとともに、子育てに関する助言や情報提供を行う機会を充実させ、保護者同士が交流できる場についても検討していきます。
3	事業所で実施している避難訓練や安全管理の取り組みについて、保護者への周知が十分でない場合があり、取り組みが見えにくくなっている可能性があります。	避難訓練や安全管理の取り組みについても実施はしているものの、保護者へ情報発信する機会が少ない場合、取り組みが十分に伝わっていないことが要因として考えられます。	避難訓練や安全管理の取り組みについては、通信やSNS等を活用して実施状況を発信し、保護者が取り組みを確認しやすい環境づくりを行っていきます。